

別記第1

様式第5

平成28年3月31日

平成27年度の主な事業報告

社会福祉法人水俣市社会福祉事業団

社会福祉事業

平成27年度は、指定管理者制度のもと水俣市立明水園(療養介護)の施設管理及び経営を行い、施設利用者の福祉及び医療の充実並びに健康の増進に努めました。

恵愛園(養護老人ホーム)については、個々の状況に応じた支援計画をもとに自立した生活が送れるように支援するとともに、健康増進並びに施設設備の整備による安全面の向上、業務の効率化に努めました。

わくワークみなまた(就労移行支援、就労継続支援B型)については、一般就労へ向けての支援並びに勤労意欲の向上や知識、能力の向上を図る支援を行いながら工賃アップに取り組むとともに、多様化する利用者の障がいに対応出来るように職員の資質の向上に努めました。

各施設の短期入所事業、地域生活支援事業については、利用者一人ひとりの暮らしを支えるケアの充実に努め、地域における福祉の向上及び増進に寄与いたしました。

県からの受託事業である水俣病患者等に係る地域生活支援事業については、外出支援事業及びぬくもりの家「潮風」運営事業を行うとともに、保健福祉ネットワーク事務局運営事業を受託し、企画部会、全体会議等を実施しながら、関係機関の連絡調整を行いました。

(1) 総括事項

ア 運営状況

本年度における事業運営の状況は、次のとおりでありました。

(ア) 明水園

支援事業の年間利用者数は16,551人(1日平均45.2人)で、前年度と比較して1,963人の減少となりました。

入院患者数は23,210人(1日平均63.4人)で、前年度と比較して11人の増加、外来患者数は647人(1日平均3.2人)で、前年度と比較して117人の増加となりました。

(イ) 明水園短期入所事業

年間の利用日数は225日で、前年度と比較して34日の増加となりました。

(ウ) 恵愛園

年間措置者数は595人(1月平均49.6人)で、前年度と比較して4人の増加となりました。

(エ) 恵愛園高齢者ショートステイ事業

年間の利用日数は122日で、前年度と比較して43日の減少となりました。

(オ) わくワークみなまた就労移行支援事業

年間延べ利用者数は1,010人(1日平均4.2人)で、前年度と比較して330人の減少となりました。

(カ) わくワークみなまたワークみなまた就労継続支援B型事業

年間延べ利用者数は6,903人(1日平均28.3人)で、前年度と比較して744人の減少となりました。

イ 事業報告

理事会等の運営事業につきましては、円滑かつ効率的な運営に努めてまいりました。

施設間の連絡・調整に関しましては、適正な施設運営と事業の充実強化を目指し、事務連絡会議等により事務事業の連携を図り各施設の支援を行うとともに、組織の活性化にも努めてまいりました。

職員の福利厚生事業につきましては、定期健康診断、生活習慣病健診を実施し、健康管理面に配慮いたしました。

ウ 財政状況

法人会計では、約1億4,000万円の収支差額が生じておりますが、前年度と比較しますと約1,000万円減少しております。

内訳としては、水俣市立明水園の看護職員を15対1から13対1に変更して届け出たことにより医療事業収入が増収となっておりますが、療養介護サービスの該当者の減少により障害福祉サービス事業等収入は減収となりました。また、わくワークみなまたにつきましては、利用者の減少により同じく障害福祉サービス事業等収入が減少しております。

エ 今後における当面の課題

水俣市立明水園につきましては、水俣病胎児性患者等の高齢化に伴う抜本的不安解消事業の一つとして個室化改修工事が2カ年計画で予定されており、利用者にとって快適な住環境が整備されてまいりますが、利用の対象となる水俣病認定患者数が減少していく中で定員を満たす利用者確保するのはもちろんのこと、今後の施設の在り方についても委託者である水俣市と連携し検討していく必要があります。

わくワークみなまたにつきましては、利用者の減少が大きな課題となっており、利用者確保に向けた取組みが大きな課題となっております。また、工賃アップに向けた授産事業の収益率の向上並びに作業の効率化等について検討していく必要があります。

恵愛園につきましては、水俣市からの措置費で運営しておりますが、養護老人ホームであるため最小限の職員配置で運営しております。今後、経営の安定のためにも、入所定員を充足させていくのはもちろんのこと、職員の増員を図れるような各種加算の取得について市当局と協議しながら取り組んでいく必要があります。

公益事業

(ア) 明水園地域生活支援事業(日中一時)

年間の利用回数は0回で、前年度から引き続きご利用がありませんでした。

(イ) わくワークみなまた地域生活支援事業(日中一時)

年間の延べ利用回数は542回で、前年度と比較して5回の減少となりました。

(ウ) 恵愛園デイサービス事業(介護予防事業)

年間に98回実施し、1,587人の利用(1回当たり平均利用者数16.2人)があり、前年度と比較して71人の増加となりました。

(エ) 水俣病患者等に係る地域生活支援事業

外出支援サービスの年間利用回数は230回(わくワークみなまた5回、ぬくもりの家「潮風」225回)で、前年度と比較して62回の増加となりました。

ぬくもりの家「潮風」運営事業は、251日の利用があり、前年度と比較して30日の増加となりました。

水俣・芦北地域水俣病被害者等保健福祉ネットワーク事業については、事務局として全体会議、企画部会、研修委員会、ISUIみらい作戦会議、研修会・セミナー、先進地視察、施設間交流研修等を実施しました。

(オ) みなよし障害者就業・生活支援センター事業

障害者に対する相談支援3,457件並びに事業主に対する支援451件を実施し、就職件数33件、職場実習件数26件となりました。

収益事業

なし